

令和5年度第1回千葉県男女共同参画審議会 議事録

千葉市市民局生活文化スポーツ部男女共同参画課

- 1 日 時
令和5年6月30日（金）10時00分～12時00分
- 2 会 場
千葉市役所高層棟3階 XL会議室301
- 3 出席者
(委員) 川島委員、南野委員、藤盛委員、ホバート委員、山口委員、久米村委員、高梨委員、高橋委員、小保方委員、栗田委員、清水委員、白戸委員、仙波委員、長岡委員、沼倉委員
(欠席：なし)
(事務局) 小名木生活文化スポーツ部長、山下男女共同参画課長、木村男女共同参画課長補佐、男女共同参画課主査、同主任主事、高木こども家庭支援課長、宇野こども家庭支援課長補佐、こども家庭支援課主査、同主任保健師、柴崎男女共同参画センター館長、中村男女共同参画センター副館長
- 4 議 題
 - (1) 会長、副会長の選出について
 - (2) 令和4年度事業報告（男女共同参画課・こども家庭支援課）について
 - (3) 令和5年度事業計画（男女共同参画課・こども家庭支援課）について
 - (4) 「就労についての意識調査」の調査結果報告について
 - (5) 多様性を活かしたまちづくりに向けた調査の実施について
- 5 議事の概要
 - (1) 会長、副会長の選出について
会長、副会長を選出した。
 - (2) 令和4年度事業報告（男女共同参画課・こども家庭支援課）について
令和4年度事業報告（男女共同参画課・こども家庭支援課）について、説明及び意見聴取を行った。
 - (3) 令和5年度事業計画（男女共同参画課・こども家庭支援課）について
令和5年度事業計画（男女共同参画課・こども家庭支援課）について、説明及び意見聴取を行った。
 - (4) 「就労についての意識調査」の調査結果報告について
「就労についての意識調査」の調査結果報告について、説明及び意見聴取を行った。
 - (5) 多様性を活かしたまちづくりに向けた調査の実施について
多様性を活かしたまちづくりに向けた調査の実施について、説明及び意見聴取を行った。
- 6 会議経過（発言）（○…委員、△…事務局）
 - (1) 開会
 - (2) 生活文化スポーツ部長挨拶
 - (3) 委員紹介及び出席委員の報告
 - (4) 【議題1】会長、副会長の選出について

△仮議長（小名木生活文化スポーツ部長） 議題1の会長、副会長の選出の前に、委員改選後、最初の審議会であるため、本審議会の概要について事務局から説明をお願いしたい。

△山下男女共同参画課長 <事務局説明>

△仮議長（小名木生活文化スポーツ部長） それでは、会長及び副会長の選出を行う。千葉市男女共同参画ハーモニー条例施行規則第14条では、会長、副会長は委員の互選によるとされており、立候補または推薦をお願いしたい。

○仙波委員 当審議会の会長は、例年大学の先生に務めていただいている。そこで、今回も、東洋大学で教鞭をとられている南野奈津子先生にぜひお願いしたい。先生の専門分野は児童福祉で、昭和大学や東京医科歯科大学でも講師を務めてこられた。

そして副会長は、現在、千葉人権擁護委員協議会千葉支部会で活躍されている、清水幸子さんを推薦したい。清水さんは、昨今様々な人権問題が注目される中、人権擁護委員として、人権啓発や人権相談に携わっていらっしゃるという。会長の補佐役として適任であると思う。また、人権教室として小学校や中学校でも授業をされているという。ぜひお願いしたい。

△仮議長（小名木生活文化スポーツ部長） ただいま仙波委員から、会長に南野委員、副会長に清水委員をご推薦いただいたが、いかがか。ご意見がないようなので、千葉市男女共同参画審議会の会長は南野会長、副会長は清水委員と決定する。ここまで仮議長を務めさせていただいたが、ここで南野会長と交代したい。進行を一旦事務局に戻す。

△木村男女共同参画課長補佐 それでは、ただいま会長、副会長に決定した南野委員、清水委員は、会長席、副会長席にご移動をお願いしたい。それでは、南野会長からご挨拶をいただきたい。

○南野会長 <挨拶>

△木村男女共同参画課長補佐 次に、清水副会長からご挨拶をいただきたい。

○清水副会長 <挨拶>

△木村男女共同参画課長補佐 それでは、ここからの会議の進行は、南野会長をお願いしたい。

（5）【議題2】令和4年度事業報告（男女共同参画課・こども家庭支援課）について

○南野会長 まず、議題2「令和4年度事業報告」について、事務局からのご説明をお願いしたい。

△山下男女共同参画課長 <事務局説明>

△高木こども家庭支援課長 <事務局説明>

○南野会長 事務局からの説明について、質問や意見はあるか。

○川島委員 男女共同参画課事業報告 男女共同参画推進事業の3相談事業（3）LGBT専門相談について、LINE相談を開始したということ素晴らしいと思ったが、広報はどのようにしているのかを伺いたい。また、6その他の取組みの（5）女性のためのつながりサポート事業等について、その他の事業は配布部数等の実績が記載されているが、こちらの事業は実績の記載がないので、相談数等を伺いたい。

△山下男女共同参画課長 LGBT専門相談の広報については、パンフレットを作成し配布しているほか、ホームページに掲載をしている。相談件数はそれほど多くはなく、昨年度の相談件数は27件であった。女性のためのつながりサポート事業の相談件数については、後ほどご報告する。（後日、相談：電話・LINE・メール等 1,818件、アウトリーチ型支援：訪問支援・同

行支援 257件、居場所の提供：213件と報告)

○小保方委員 男女共同参画課事業報告の男女共同参画センター管理運営事業の3交流・啓発事業(3)男女共同参画センター情報誌「みらい」の発行について、今回、審議会に出席するにあたり「みらい」を読み、記事などに心を打たれた。記事を目にすれば同様に気持ちの整理がつく方も多いのではと感じる。また、自分の考えがこういう形で生かされて発信されていくことを学んだ。しかし、今回審議会委員になる以前は、なかなか「みらい」にたどり着くことがなかった。「みらい」を見た場所は、図書館等の公的な施設だけであったが、色々な市民に届くような形で広報をした方がよいのではないかと。どのような方法で配布しているのかを伺いたい。

△中村男女共同参画センター副館長 当センターや公共施設で配布しているほか、ホームページに掲載している。興味がある方の手にきちんと届けることができるよう、今後とも、努力していきたい。良い配布場所などがあればお知らせいただきたい。

○南野会長 事業の対象になるのは、情報へのアクセスが難しい立場にある方である。日本語だけではなく、多言語化も検討いただきたい。

(6) 【議題3】令和5年度事業計画(男女共同参画課・こども家庭支援課)について

○南野会長 議題3「令和5年度事業計画」について、事務局からのご説明をお願いしたい。

△山下男女共同参画課長 <事務局説明>

△高木こども家庭支援課長 <事務局説明>

○南野会長 事務局からの説明について、質問や意見はあるか。

○沼倉委員 当事者やその家族、アライの方々との交流会を開催しているLGBTQフレンズという団体の代表を務めている。LGBT専門相談では、私も相談員を務めている。相談件数は徐々に増えている印象はある。しかし、実施回数が月1回から2回に増え、LINE相談も始まったが、期待していた程は件数が増えていない。広報の手段について、見直しや追加など考えていることはあるか。

△山下男女共同参画課長 分かりやすいパンフレットを作成し、市の施設など出来るだけ幅広い場所で配布するほか、関連事業のイベント等で配布することが基本になる。今のところ拡げられる案はないが、配布場所などご意見やご提案をいただくとありがたい。

○沼倉委員 私達も検討し、提案をしていけたらと思う。もう1点、相談を受けたあとに相談員が集まりフィードバックを行う場がない。フィードバックの場を管理運営するのは、相談業務の受託事業者が行うのか、それとも男女共同参画課が行っていくのかを伺いたい。

△山下男女共同参画課長 相談事例のフィードバックや研究は、受託事業者の相談業務の中で実施していただきたい。市のこのような機関と連携した方がよいなど、市の事業と関連することなどがあれば、我々も出席したい。

○栗田委員 男女共同参画課事業計画 男女共同参画推進事業の6その他の取組み(1)女性に対する暴力をなくす運動について、オレンジリボン・パープルリボンキャンペーンを児童虐待防止運動と連携して実施するとある。また期間は11月12日から25日となっている。民生委員では、例年、児童虐待防止啓発運動として、民生委員がオレンジリボンを装着するオレンジリボンキャンペーンを11月1日から30日まで実施している。パープルリボンとオレンジリボンでキャンペーン期間に相違があることが気になる。

△山下男女共同参画課長 経緯など確認し、期間を合わせるかどうか検討していきたい。

○高橋委員 男女共同参画課事業報告で、昨年度、女性活躍推進セミナーとして YouTube 動画の配信を行ったとあるが、市内事業者向けのもので247回の視聴回数は多い印象がある。令和5年度の計画には記載がないが、実施しない理由はあるのか。

△山下男女共同参画課長 昨年度のセミナーは、昨年度から開始した女性活躍推進アドバイザー派遣事業の宣伝も兼ねて実施したものであるため、今年度新たに動画を作成することは予定していない。

○ホバート委員 広報の方法や場所について、他地域の例であるが、駅に情報誌やパンフレットを置いていたと聞いたことがある。また、民間の会社や店舗と連携して配布場所を増やす方法もあるのではないかと。それぞれの当事者の方々が利用する場所で配布出来ると良いのではないかと。また、職員の方を対象とした研修をされており素晴らしいと思った。例えばこども家庭支援課のDV関連相談員等を対象としたスーパービジョンの実施は、継続して実施しているものだと思うが、目標として、管理職や窓口対応職員など、職員の役割に応じた人数の設定などはしているか。

△高木こども家庭支援課長 DV等の研修は、民間団体に依頼し実施している。また庁内及び関係機関等に対して、広く参加の呼びかけをしている。市職員に対しては、役職等問わずに呼びかけをしており、特に窓口で実際に支援事業に携わっている職員に積極的に参加してもらっている。今後は管理職に関しても、参加を促すような呼びかけを検討していきたい。

○川島委員 こども家庭支援課事業計画 1 暴力根絶と人権尊重のための啓発・教育の推進 (1) デートDV予防啓発リーフレットの作成・配布について、市立中学校で配布とあるが、いつ頃配布する予定であるか。中学校に伺う機会があるので、もっと関連付けて話が出来るとよいと思うので伺いたい。

△高木こども家庭支援課長 今年度の配布は、夏休み明けを予定している。

○久米村委員 デートDV予防啓発リーフレットについて、昨年度の事業報告で8,500部配布したとあり、今年度も同じく8,500部の配布を予定しているということは、一定の成果があったと見ているのではと思う。学校への配布のお願いはどのようにしているのか。リーフレットを配ってくださいますか、またはこれを使用して指導や授業を行うこともお願いしているのかを伺いたい。また、子どもたちに対する何かしらの成果があったということで継続しているのだと思うが、子ども達の声をフィードバックしているのか、内容に反映しているのかを伺いたい。さらに意見として、最近の若者は情報を取りに行くというよりは、降ってくる情報を受け取ることの方が多と思うので、市のツイッターやLINE等を活用した広報が効果的であると思う。

△高木こども家庭支援課長 デートDV予防啓発リーフレットの配布方法について、学校には生徒への配布を依頼しており、特にその内容を授業の中での説明することなどは依頼していない。デートDVについて意識をしていない子どもが多いと思う。できるだけ若い段階から周知したく、大学生や専門学校生だけではなく、中学生へも配布をお願いしている。また、フィードバックについて、今後アンケートを実施する機会等があれば、その効果についても確認していきたい。

○南野会長 最近、18歳の女の子が亡くなった事件が報道されている。女の子だけではなく、若い男の子が意識する機会があると良いと思う。

(7) 【議題4】 「就労についての意識調査」の調査結果報告について

○南野会長 議題4 「就労についての意識調査」の調査結果報告について、事務局からのご説明をお願いしたい。

△柴崎男女共同参画センター館長 <事務局説明>

○南野会長 事務局からの説明について、質問や意見はあるか。

○藤盛委員 「就労についての意識調査」調査結果報告書本編の16ページ 問1「就労の目的や意味」について、「経済的に自立するため」との回答が、前回調査と比較して15%高くなっている。コロナ下で経済的に苦しい状況であったとはいえ、かなり大きい変化であると思うが、考えられる理由はあるのかを伺いたい。

△中村男女共同参画センター副館長 アンケート調査の中では、理由までは尋ねていないが、自分で自立するという意識を持つ女性が増えたのではないかと推察している。

○南野会長 年代的に、特に若い方が多いのか。

△柴崎男女共同参画センター館長 調査結果報告書本編の17ページに、それぞれの回答について、年代とのクロス集計の結果を記載している。「経済的に自立するため」との回答の前回調査との比較では、29歳以下では21.4%増加、30歳では22.9%増加している。

○南野会長 図表1-2では、29歳以下は59.2%と高い数値である。

○小保方委員 「就労についての意識調査」調査結果報告（ダイジェスト版）の9番「管理職への登用希望」について、「昇進は望まない」という回答が多い。女性が昇進を望まない理由として、男性が家事や育児に協力をしてくれないというサポートに関わることもあるかと思うが、昇進することが女性っぽくないといったアンコンシャスバイアスも隠れているのではと考えている。今後は、その様な無意識な部分も吸いあげられたらよいと思う。

△柴崎男女共同参画センター館長 「管理職への登用を望まない理由」については、10番に記載してある問16で調査している。「現在の立場で働きつづけたいから」、「管理職になると、責任が重いから」、「管理職になると長時間労働となり、生活との両立が難しいから」等の選択肢で理由をたずねているが、女性っぽくないという理由や男性の支援がないという理由は選択肢になかった。今後、ご意見を参考にして調査票を作成したい。

○川島委員 非常に興味深い調査で、大切な資料である。資料の4番に記載のある問6離職理由の調査結果について、今回の調査では「家事・育児・介護との両立が難しいため」という選択肢が加わっている。前回の調査でもあった選択肢として、別に「育児のため」、「介護・看護のため」というものもある。新しく選択肢が加わったことで回答が分散してしまうのではと思った。この選択肢を追加した理由、または前回からあったものを残した理由を伺いたい。

△柴崎男女共同参画センター館長 同様のテーマで定期的に調査をしている。前回の平成27年度に実施した調査結果と比較できるよう、ある程度、前回の調査に沿った内容としている。

△中村男女共同参画センター副館長 回答が分散することも懸念されたが、「両立」が難しいため離職したのか、育児等そのことに専念したいから離職したのかで、違いが出るのではと想定し、選択肢を追加した。

○南野会長 育児と介護は、別々にした方が良いのではないか。その方がどの世代がどのような苦勞をしているのかが分かるのではないかと思う。類似する調査を実施する際にご検討いただきたい。

○高梨委員 管理職への登用を望まない理由だけではなく、あわせて、管理職への登用を希望している方が、どのようなきっかけで希望するようになったのか、または家庭や職場などがどのよ

うな環境であったから希望することが出来たのか等を尋ねることも必要ではないか。

△中村男女共同参画センター副館長 今回の調査では、前回結果と比較することを主な目的としていたため、なぜ希望できたからという調査項目は実施していないが、今後調査を実施するにあたりご意見を参考にしたい。

(8) 【議題5】多様性を活かしたまちづくりに向けた調査の実施について

○南野会長 議題5多様性を活かしたまちづくりに向けた調査の実施について、事務局からのご説明をお願いしたい。

△山下男女共同参画課長 <事務局説明>

○南野会長 調査対象者が15歳から65歳までである。何が正しいという確証があるものではないが、日本の高齢化率は65歳以上が30%を超えており、今回の調査では人口の約70%を対象とすることとなる。65歳以上の方でも問題意識が高い方や、色々な方と接点を持った経験のある方もいる。65歳までが妥当であるか。全体の人口の縮図を対象に調査を実施することで、千葉市の状況が分かる。調査票素案の4ページと5ページの間4と問6について、選択肢7番に「犯罪被害者に関するもの」とあるが、生きづらさを感じている理由としては、「者」をつけず、「犯罪被害に関するもの」とした方が良いのではないか。同じく選択肢6番の「疾病患者、医療従事者等に関する者」も「者」とつくと、回答に迷うのではないか。

△山下男女共同参画課長 調査対象年齢については、我々の中でも議論があったところで、これからも議論を重ねたいと思っているので、ぜひご意見をいただきたい。18歳から60歳を調査対象とする事例も多かったが、若い方や高齢の方の意見も欲しいということで検討した結果、15歳以上であればある程度きちんと意見が言えるのではないかと、また現役世代の年齢の幅が広がっているのではないかと、今の時点では調査対象者を18歳から65歳としている。しかし、ご意見のとおり、これだと調査対象が現役世代だけになってしまうので、もう少し広げることも検討したい。次に、4ページと5ページの選択肢について、他の部分にも「者」を付けて個人と特定しているものと、属性とが混ざっている箇所がある。例えば「障害者」という表記と「障害の有無」という表記がある。「者」は削除し、属性に限定する方向で検討したい。

○長岡委員 私は町内自治会の関係者であるが、非常に高齢化が進んでおり60歳でも若者である。ぜひ対象者の年齢は見直していただきたい。高齢者でも生活を維持するために働いている方や地域の活動をされている方もいらっしゃる。

○ホバート委員 多様性についての調査ということであり、「多様」の中には外国にルーツがある方も入っていると思うが、やさしい日本語での質問など、日本語が苦手な方も回答できるような対応はされるのかを伺いたい。

△山下男女共同参画課長 多様性の中には、外国にルーツを持つ方に関することも、もちろん大きな課題として含んでいる。多言語化した紙の調査票を送ることは難しいと考えているが、ウェブ上で、多言語化されたものを見られるようにする、またはやさしい日本語を使うなど、予算等の制限はあるが、できる限り対応することを検討したい。対応が難しければ、対話会などで意見を伺うことも検討していきたい。

○小保方委員 生きづらさを感じる理由に関する質問について、モヤモヤとしてなぜ生きづらさを感じているか分からない、どう表現してよいか分からない方もいると思う。そのような方が答えやすいようにしてはどうか。選択肢の一番下に「その他（自由記述）」とあり、そちらを選べば良いのだと思うが、人によっては、理由はある程度分かっているがそれが上の15番までにたまたま当てはまらないという場合しか「その他」を選んではいけないと思われるのではないか。例えば（自由記述）とある部分を、（自由記述、不明・モヤモヤ等含む）とするなど、文言を追

記したらどうか。

△山下男女共同参画課長 「その他」の自由記述欄に書いていただいた意見は重要なものであるが、アンケート調査の結果の数字としては表れにくい。そのため、出来る限り数字として見えるような形にしたいと考え、15番まで細かく選択肢を作成した。その結果、選択肢にあてはまらない方が答えづらく感じることもあるかもしれない。そういったことがないような工夫も検討したい。

○南野会長 調査票素案6ページ、問10の選択肢4番の「行政による相談窓口の整備」と、選択肢5番の「行政による差別を受けた人への支援」について、行政に限定しなくても良いのではないか。今日会議に出席している方々の中にも多くいらっしゃるが、実際には行政以外の地域の様々な団体が窓口を整備することもとても大事である。

△山下男女共同参画課長 差別を受けた方への支援等をどこが行うかという主体を明確にしたいということで「行政による」と記載している。しかし、事業者や地域による支援等も当然考えられる。「行政による」という文言は削除する方向で検討したい。

○藤盛委員 「あなたご自身のことについてお伺いします。」にある質問としては、性別に関する質問が多い。今回の調査は、性別に限定した話ではなく、問4の選択肢であげられているような様々な生きづらさや、差別一般についても対象としている。性別以外の質問を増やしてもよいのではないか。

△山下男女共同参画課長 今回の調査における「多様性」とは、幅広いことを指しており、性的指向や性自認、性別はその中の一つの要素である。昨今の情勢から、性的指向や性自認、性表現のについて詳しく把握したいという意図があり、質問を設定した。その他のことについては、例えばF8で、国籍について詳しく質問することも検討したが、それも難しいと考え、今のところは国籍については、日本か日本以外かに限定した質問としている。

○沼倉委員 私自身、多様性を知る意味や、その意味を伝えていく必要性があると考えている。多様性が必要だということも分かっている。知識を広めることは大事だとみな言っているが、なぜ知る必要性があるのかという根本的なところはあまり言っていない。人間は一人では生きられないので、周りの人や自分に関わる人も幸せであって欲しいと思っている。この調査では、自身のことだけでなく、問5で身の回りの人についての質問があり、良かったと思っている。なぜ身の回りの人についての質問を入れたのか、ご意見を伺いたい。

△山下男女共同参画課長 基本は自身の困っていることや生きづらさを知りたいと考えているが、周囲の方が気づいていることや、LGBTというアライのような理解者がいらっしゃるのかといったところも把握したい。また、周りの方の状況や感じていることも明らかにしたいという意図から、質問に加えている。

○沼倉委員 無関心であっても、無関係ではられない。身の回りの方も大事だということもアンケートの中に入れてもれればと思うので、拡充してもらいたい。

○白戸委員 上野千鶴子先生の講演会で当審議会の公募委員の案内を知った。千葉市在住であるが、このような審議会があることは知らなかった。しかし、青年司法書士協議会の会長をしており、上野先生を基調講演の講師に迎えるための分科会の関係で、こういった審議会があるということを知り、公募委員に応募した。2024年の3月に、上野先生を講師に迎えて全国大会を行うことを企画しており、その実行委員長をしている。テーマとしてはジェンダーから始まったが、多様性やダイバーシティ、生きづらさ、LGBTQ、シングルマザー、精神障害、引きこもりについても実行委員で話し合いを重ねている。市民の立場としては、先に説明があった「就労に関する意識調査」であればとても答えやすいと思うが、多様性やダイバーシティに向き合ってきてい

ない方のもとに「多様性を活かしたまちづくりに向けた調査」という固い言葉のアンケートが送られてくると、びっくりさせてしまうのではないかと。調査票の最初に、調査の目的や多様性を活かしたまちづくりに関する説明があるが、この2行の説明では調査に回答する動機付けとしてはすごく薄いのではないかと。また、2ページ目で性別や性的指向、表現したい性などLGBT関係の部分からすごく聞かれることで違和感を与えるのではないかと。いきなりF3からF5のような質問が来ると、びっくりして、また自分事ではないととらえられ、最後まで答えるモチベーションが無くなると思った。多様性には色々なことを含むと思うので、もう少しソフトなアンケートにした方がよいのではないかと。

△山下男女共同参画課長 性的指向や性自認などについて、ここまで細かく質問する調査は、千葉市では初めてであるが、他の自治体ではかなり実施されているものである。しかし、この内容を見て、少しびっくりする方もいるかもしれない。多様性を活かしたまちづくりに関する説明は、

市の基本計画の内容に沿ったものであるが、調査の意図や、なぜこのような項目に答えてもらいたいのかということをご理解いただけるよう、ご意見を参考に修正を加えたい。ただし、F1からF5の内容は、アンケート項目としては実施したい。

○南野会長 質問の順番を変えても良いかもしれない。例えば、F1の次にF6を持って来て、F2からF5は、「以下の設問について、ご回答願います」の後に位置付けてはどうか。生きづらさに関する質問がいくつかきて、次に性的指向や性自認に関する質問がきて、その後、問1や問2のような多様性を活かしたまちづくりに関する考えについての質問を持っていくことが考えられる。そうすれば、問2と問10は同じ分類に出来るのではないかと。

△山下男女共同参画課長 アンケート調査の構成は、初めに属性に関する質問があり、そのあとに調査内容に関する質問がくるものが基本的なものであるが、会長がおっしゃった流れであれば、比較的回答しやすいと感じた。技術に可能かどうかということは確認する必要があるが、順番は検討したい。

○川島委員 4ページの間4の選択肢6番「疾病患者、医療従事者等に関するもの」について、私達が相談を受ける場合には、疾病というよりは体調の心配でいらっしゃる人が多い。疾病、医療従事者ではなく体調、医療の方が良いのではないかと。また、どこに相談すればよいか分からなかったという方も多い。相談する人がいない、孤独を感じているというような方は、選択肢には入らないのか。

△山下男女共同参画課長 疾病に加えて体調という文言を入れることは可能である。この選択肢で具体的に想定しているのは、ハンセン病やエイズなどの疾病患者の方や、新型コロナウイルス対応をした医療従事者の方などの生きづらさなどである。体調の場合には、その方ご本人の生活に支障があることによる生きづらさであると思うので、置き換えるのではなく、追加であればよいと思う。また、相談する人がいない、孤独を感じているという方については、その他を選択していただくことを想定していたが、選択肢の案があればご意見いただきたい。

○川島委員 「相談する人がいない、孤独を感じる」はどうか。ユネスコが実施した子どもに対する調査では、日本の子どもの精神的幸福度が非常に低く、孤独であることが浮き彫りになった。孤独に関する選択肢を入れても良いのではないかと。

○南野会長 「他者とのつながりに関するもの」ではどうか。

△山下男女共同参画課長 「他者とのつながりに関するもの」といったイメージで検討したい。

○久米村委員 F11で所得について質問する理由を伺いたい。また、調査対象に高校生が含まれるのであれば、所得が「ない」という選択肢が必要でないかと。また、質問の順番はとても重要

であり、検討をお願いしたい。問2と問10は密接に関連しているので、問2の後に問10で良いのではないか。問8と問9は多様性に関する学びについての質問であるが、その後に問10でどのような取り組みが必要だと考えるかを質問すると、「学校における教育」に回答が偏ってしまう恐れがある。問8と問9は独立させる、または「あなたご自身のことについてお伺いします。」の項目に含めても良いかもしれない。

△山下男女共同参画課長 所得については、問4と問6の選択肢10番に「所得・財産に関するもの」があり、これに関連して属性として伺いたい。また、F11には、所得がないという選択肢を加えたい。さらに、質問の順番は検討していきたい。

○南野会長 今後気付いたことがあれば、メール等でご連絡することは可能か。実際には、委託事業者との調整や、費用、スケジュール等の問題もあるので、意見は参考としていただきたい。

△山下男女共同参画課長 いつまでにご意見をもらえれば反映が可能であるかを含めて、ご連絡する。ご意見があれば引き続き伺いたい。

○南野会長 これで議事は終了としたい。進行を事務局にお返りする。

△木村男女共同参画課長補佐 次回の審議会は、12月上旬頃を予定しており、改めて事務局から連絡する。以上をもって、令和5年度第1回千葉県男女共同参画審議会を閉会する。